

埼玉大学教職大学院説明会

2026年6月19日(金) 15:00~16:00

Zoomで参加している方へ

- ①カメラとマイクをOFFにしてご参加ください。
- ②Zoom表示名を「所属・氏名」としてご参加ください。



本説明会は録画をしています。録画をした動画は後日教職大学院HPに掲載いたします。

本日の流れ

- ① 専攻長挨拶 (中島 専攻長)
- ② 埼玉大学教職大学院の概要 (中島 専攻長)
- ③ 教職大学院の学修内容について (桜井 先生)
- ④ 実地研究とは (西尾 先生)
- ⑤ 大学院入試情報について (重川 先生)
- ⑥ 現役院生の言葉
(教職大学院 1 年・学卒院生 池田智也さん)
(教職大学院 1 年・現職院生 (短期履修) 窪田翔太さん)
(教職大学院 2 年・学卒院生 杉山愛来さん)
- ⑦ 質疑応答




① 専攻長 あいさつ



教職大学院での学び

- 埼玉大学教職大学院は、**教育に関わる高度な専門的理論と学校現場での実践を融合したカリキュラム**を有しています。
- **研究者教員のみならず、豊富な現場経験を持つ実務家教員が連携した指導体制のもとで、教育現場の課題解決や児童・生徒の成長をファシリテート（促進）する人材の育成を目指しています。**
- **先が見えないお手本のない（VUCA）の時代を生きる上で必要となる教育を担う人材の育成を目指しています。**
- 院生は、**学部を卒業した院生（学卒院生）と、現職の教員の院生（現職院生）がともに学びます。**



時代が大きく変化していく中で、これからの社会を担う人材育成の場としての教職大学院が求められている。

- 免許の修士レベル化（専修免許状）最終的に専修免許状を目指す。全員が専修免許状（大学院卒業）
- 主な強み・専門性を持った教員

大人の成功体験や経験によらない教育が求められている

担うのは多様な専門性を有する質の高い教職員集団

中央教育審議会（令和7年6月27日第151回教員養成部会）

https://www.mext.go.jp/content/20260430-kyoikushokuin-000049466_2_21.pdf

②埼玉大学教職大学院の概要

○入学定員 52名

○入学者数 R8 学卒院生 55名 現職院生 11名

R7 学卒院生 42名 現職院生 13名

→学卒入学者のうち、**3人に1人は他大学出身**の学生です。

○教員数 86名

○学費

入学料 282,000円(予定額)

授業料 321,480円[前期分(予定額)]

642,960円[年額(予定額)]

※上記費用の他、保険加入などの費用がかかります。

※授業料は、令和9年度入学生より改定



○取得できる学位 教職修士(専門職)

教職大学院生 奨学金全額返還免除

奨学金全額返還免除制度

教職大学院を3月に修了し4月から正規の教員に就く方を対象に、教職大学院で2年間受給できる奨学金が全額返還免除となります。

学費や生活費を稼ぐためにアルバイトする時間と労力を大きく減らして、学業を続けられます。保護者にも新たな経済的負担をかけずに進学することが可能です。

ぜひ、この新しい制度を活用して、一人でも多くの方が高度な実践力を身に付けた教員となり、学校教育を牽引して欲しいと願います。

免除対象者の条件など詳しい制度内容は
文部科学省の公式ページにて

文部科学省 奨学金返還支援

検索



③教職大学院の学修内容について

埼玉大学教職大学院ではどのようなことが学べるの？

埼玉大学教職大学院ではどのようなことが研究できるの？

学卒と現職教員や他のサブプログラムとの交流、勉強の機会はあるの？



研究科カリキュラム委員会

本研究科の特色

三大強化 ポイント

協働して取り組む**共同探究力**の育成

新しい時代の変化にも対応した
高度な教材開発力・教科指導力の育成

実践的な**省察**の充実

1. 協働して取り組む共同探究力の育成

- 複雑化し多様化する学校現場の問題の解決のために発揮される
- 組織として教育活動に取り組む体制づくりに積極的に参画し、自らの専門性を発揮しながら協働して問題解決を図る資質・能力を育成 チーム学校の体制づくりの中核を担う教員
- 学校内外の他職種との協働（養護教諭、スクール・カウンセラーなどの心理領域の職種、スクール・ソーシャルワーカーなどの福祉領域の職種）、他校種連携（幼児教育と小学校、インクルーシブ教育など）、学校外の関連専門機関や、地域の専門職・専門的人材との連携が求められる中、それぞれとつながりながら問題を解決することができる教師
- 「現代的・地域的教育課題の共同探求（ジョイント・リサーチ）」の設置

2. 高度な教材開発力・教科指導力の育成

- 高水準の教科特有の知識・技能の習得や探究を基盤としながら、自分の授業実践の向上を可能にする教材研究・授業研究の力量を形成
- 「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」など、授業改善や新しい教科領域にまたがる教育内容の開発、カリキュラム・マネジメントを推進する協働的な教員集団の中核としてその力量を発揮できる教員
- 教科横断・分野交流の活動を取り入れた教科教育に関する共通科目の設定を特色としている。自分の専門教科だけでなく他の教科のトピックや課題に触れることで、新しい教育内容の開発につながる高度な教科教育力の育成を行う

3. 教員の実践的力量的の向上に欠かせない 実践的な省察の充実

- 複雑な要素が絡む学校現場の問題状況に対し、学校教育の当事者の中核として**問題解決を図る**ことのできる教員
- 現場の閉塞状況を打破するために、問題が生じている固有の子どもや教室の中で特定の文脈や状況を適切に読み解く省察の在り方が問題解決の成否を握っている
- 「**理論と実践の往還**」の過程で、それぞれを架橋していくもの
- 「**実地研究 I・II**」の充実とその振り返りを含む「**学校と教職の課題探求（グループ・カンファレンス）**」の強化

理論と実践の融合をより可能とする方策

- 研究者教員と実務家教員、複数の教員による協働の授業
- 現職院生と学卒院生の共同学習
- グループワーク、ディスカッション、ロールプレイング等、多様な授業形態
- 附属学校園も含めた学校教育現場のより一層の活用
- この他の連携・協働のあり方の追求（学校内にとどまらず、地域、学校外の専門機関との連携も視野に入れた場合、他職種との協働も）

★共通科目 < 5領域, 16単位 >

* 印は全員必修 他はSP指定の必修科目の例

科目区分（領域）	授業科目名
教育課程の編成・実施に関する領域	教育課程の課題探求* 子ども共育の理論と実践 教科の教育課程構成論
教科等の実践的な指導方法に関する領域	教科指導の課題探求* 特別支援教育の課題探求 教科指導の発展・応用
生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の課題探求* 特別支援教育コーディネータ演習 子供の発育発達と保健室における養護教諭の実践
学級経営、学校経営に関する領域	教育経営の課題探求* 学校構想の理論と実践 現代の健康問題と学校保健の実践的課題
学校教育と教員の在り方に関する領域	学校と教職の課題探求* 学校課題改善演習

小計（14科目） 「学校と教職の課題探求」のみ通年4単位、他は半期2単位

★共通科目の特色

- 「学校と教職の課題探求」のみ、通年開講の4単位、授業展開のなかで講義・講義と演習に加えて、実地研究での学校の経験に基づいた省察と対話を含む「グループ・カンファレンス」を取り入れて授業を構成する。テーマに沿った専門性を持つ大学教員とともに、定期的に実地研究の振り返りを行う。
- 他の4つの必修科目（*印2単位）は、ターム制を利用し2コマ連続の1/4学期、を2クラス設定
 - ・・・講義と演習を連続した時間設定で効果的に実施するため

★課題研究Ⅰ・Ⅱ

- **課題研究Ⅰ**は、学校現場での教育実践に触れることを通して、教育実践に関する課題意識を明確にし、教育実践に係わる基礎的事項の学修を進め、教職および教育実践力の高度化に資する研究を行うことを目的とする。
- **課題研究Ⅱ**は、実地研究やその他の教育実践への関与により、教育実践についての課題意識に即した探究を継続し、指導教員との協議のもと、定期的に取りフレーションを行いながら、その研究成果を**課題研究報告書**にまとめる。
- 課題研究のテーマは、院生個々の興味や専門性を生かして設定し、主・副の**複数の指導教員が指導する**体制をとる。
- 2月に開催される教育実践フォーラムで**課題研究発表会**を行う。

★選択科目のうち、全体にかかる科目

- 「現代的・地域的教育課題の共同探求（ジョイント・リサーチ）」

教育に関わる現代的かつ横断的な問題、埼玉県という地域に関わる問題に関して、多様なスタッフや院生が、課題設定から成果公表の過程を協働しグループでの研究を行う。学校を中心としたいくつかのフィールドを行き来しながら、問題を多角的に検討する内容とする。

- 「教育実践総合演習」

学校現場で生起する様々な課題に対応し解決する方策を総合的・実践的に探究する演習（対話・ワークショップ）形式の授業である。

- 「探求活動演習Ⅰ・Ⅱ」（修了要件外）

将来博士課程への進学を志望しているもの対象。

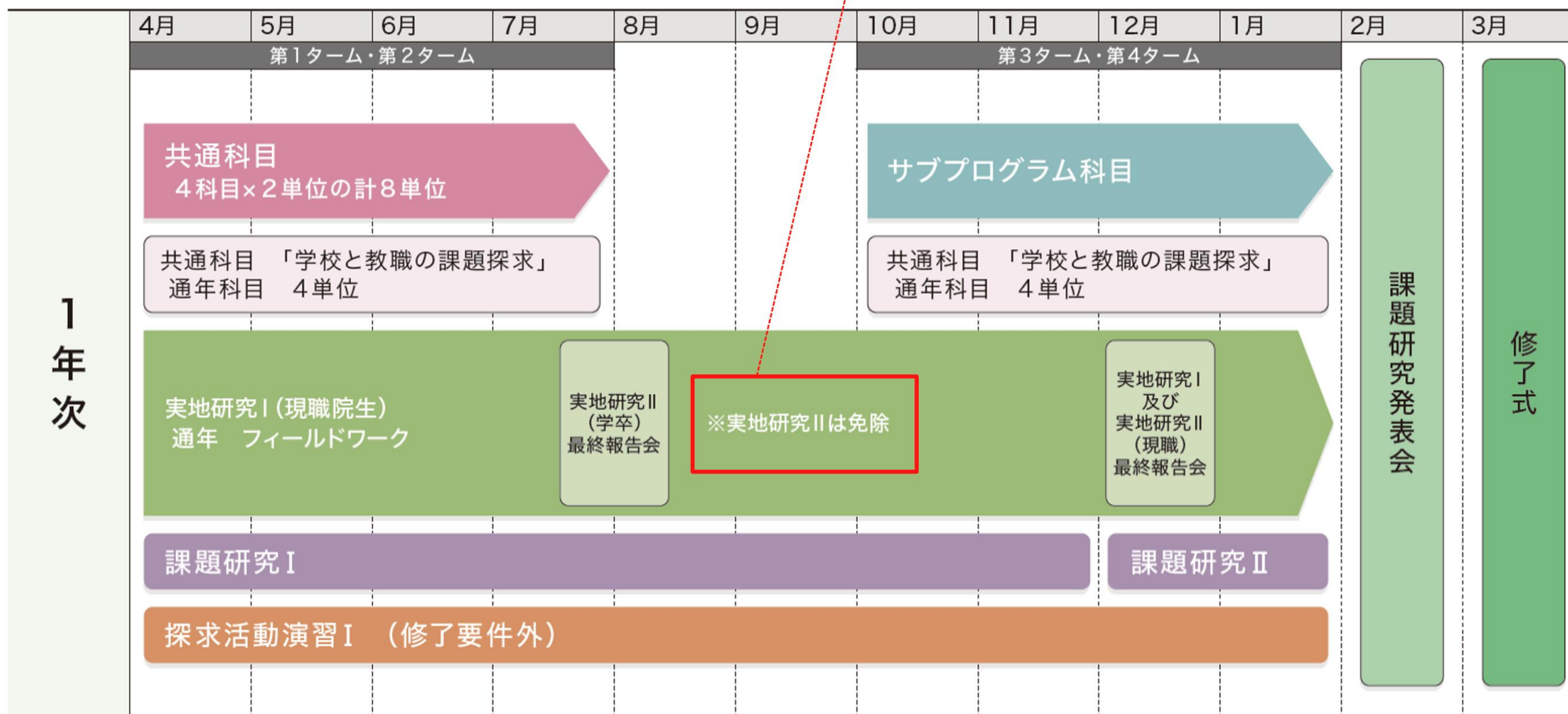
院生が強い興味関心を持つ特定の分野について、それを専門とする教員の指導を直接受けながら個人での探究活動を行う。

★履修スケジュール:学卒院生・現職院生(2年履修)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	第1ターム・第2ターム					第3ターム・第4ターム								
1 年 次	共通科目 4科目×2単位の計8単位					サブプログラム科目								
	共通科目 「学校と教職の課題探求」 通年科目 4単位					共通科目 「学校と教職の課題探求」 通年科目 4単位								
	実地研究Ⅰ(学卒院生) 9月末～ 週2日×8週の計16日間実施 実地研究Ⅰ(現職院生) 通年 フィールドワーク					実地研究Ⅱ (学卒) 最終報告会		実地研究Ⅰ 及び 実地研究Ⅱ (現職) 最終報告会					課題 研究 中間 発表 会	
	課題研究Ⅰ													
	探求活動演習Ⅰ (修了要件外)													
2 年 次	第1ターム・第2ターム					第3ターム・第4ターム								
	実地研究Ⅱ(学卒院生) 4月中旬～ 週2～4日の計24日間実施 実地研究Ⅱ(現職院生) 通年 計24日間実施					実地研究Ⅱ (学卒) 最終報告会		※現職院生のうち、派遣制度利用者は 勤務校、休業制度利用者は勤務校以 外で実施。 実地研究Ⅰ 及び 実地研究Ⅱ (現職) 最終報告会					課題 研究 発表 会	修了 式
	課題研究Ⅱ													
	探求活動演習Ⅱ (修了要件外)													

★履修スケジュール(現職短期履修院生)

実地研究Ⅱの6単位分が免除される



※実地研究最終報告会(7月・12月)、課題研究発表会(2月)は全員参加。

学卒院生・現職2年履修院生(1年次)の履修登録例

※教科教育高度化プログラム

第1・第2	月	火	水	木	金	第3・第4	月	火	水	木	金
1限	【第1】 (1・2限連続) 教育経営の 課題探求	教科の 教育課程 構成論	教科指導の 発展・応用			1限				実地研究Ⅰ	実地研究Ⅰ
2限	【第2】 教科指導の課 題探求	(選択科目)	(選択必修)			2限		(選択科目)	(選択必修)	実地研究Ⅰ	実地研究Ⅰ
3限	(選択科目)	課題研究 (ゼミの先生と相 談して時間設定)				3限		課題研究 (ゼミの先生と相 談して時間設定)		実地研究Ⅰ	実地研究Ⅰ
4限	(選択必修)	(選択科目)	【第1】 (4・5限連続) 生徒指導・ 教育相談の 課題探求			4限		(選択必修)	(選択科目)	実地研究Ⅰ	実地研究Ⅰ
5限	学校と教職の 課題探求		【第2】 (4・5限連続) 教育課程の 課題探求			5限	学校と教職の 課題探求		(選択必修)	実地研究Ⅰ	実地研究Ⅰ

現職院生(短期履修)の履修登録例

※教科教育高度化プログラム

第1・第2	月	火	水	木	金	第3・第4	月	火	水	木	金
1限	【第1】 (1・2限連続) 教科指導の 課題探求	教科の 教育課程構成 論	教科指導の 発展・応用			1限	(学部科目等履修)	(選択科目)	(学部科目等履修)		
2限	【第2】 教育経営の 課題探求	(選択科目)				2限		(学部科目等履修)	(必修科目)		
3限		(学部科目等履修)	(必修科目)	課題研究 (ゼミの先生と相 談して時間設定)		3限	(必修科目)	(必修科目)	(必修科目)	課題研究 (ゼミの先生と相 談して時間設定)	
4限	(学部科目等履修)	(学部科目等履修)	【第1】 (4・5限連続) 生徒指導・ 教育相談の 課題探求			4限	(選択科目)				
5限	学校と教職の 課題探究		【第2】 (4・5限連続) 教育課程の 課題探求			5限	学校と教職の 課題探究				

④ 高度教職実習「実地研究」とは

大学で教育実習に行ったけどもう一度教育実習に行くの？

実習先はどのようなところがあるの？

実地研究ってどんなことをするの？

現職も教育実習???

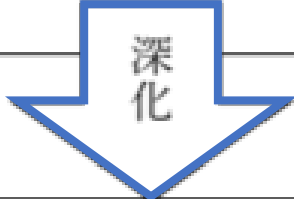



高度教職実習「実地研究」の目的

- 学校の教育活動全体について総合的に体験し、教育実践上の課題に対するより効果的な思考法（省察）と対応力を身につけること

期待される成果	学校組織の一員としての実践力の向上 研究活動の深化、まとめ
---------	----------------------------------

学卒の実地研究 I 及び II

科目名 (時期)	実習校での実践研究活動	大学院での研究活動
実地研究 I (1 年次 後期)	期間：週 2 日木・金×8 週の計 16 日間 ねらい：学校教育における実践を深く理解することを目標とし、実習校で実習を行う。	課題研究 I 幼児児童生徒の実態及び発達の理解と学校教育の全体構造とを関連づける
		
実地研究 II (2 年次 前期)	期間：原則週 2 日木・金×12 週、(または週 4 日火・水・木・金×6 週の計 24 日間等) ねらい：実地研究 I における気づきをより深める形で学校の様々な教育場面における多様な教育実践に臨床的に関わることを意図する。	課題研究 II 実践の成果をもとに、各自設定した研究テーマの深化につなげる。
期待される成果	学校組織の一員としての実践力の向上 研究活動の深化、まとめ	

「実地研究」と「教育実習」の違い

教育実習

- 教員免許状の取得を主なねらいとする実習。
- 授業の行い方、指導案の作成の仕方など授業を中心に実習校の先生が指導。

実地研究

- 既に教員免許を取得している院生。
- 実地研究校における教育活動全般について総合的に体験。学校現場で起こる様々な課題・問題について主体的に解決するための方策を研究する高度な実務実習。
- 院生は、理想とする教師像を明確にし、その教師像に近づくことができるよう、授業や教育活動に参加。
- 院生も学校を支えていく教員の一員としての意識をもって実習。

教育実習は



実地研究は



実地研究ⅠとⅡの違い

- 実地研究Ⅰでは、学校園の教育活動全体について幅広い体験を通じて学校園における課題・問題を深く理解し、各自の課題意識、そして、研究テーマを明確化させる。また、理論と実践を結びつけながら、実践力の向上と創造的実践の探求を目的とした実習を行う。
- 実地研究Ⅱは、課題研究Ⅱとの往還を重視し、研究テーマの深化につながる実践に努めるとともに、実地研究Ⅰにおける気づきをより深める形で学校の様々な教育場面における多様な教育実践に臨床的に関わることを意図する。
- 以上の実地研究Ⅰ・Ⅱを通して、学校組織の一員として、実践力を高めることを目指す。

※課題研究のための実践活動を主たる目的としていません

現職院生の実地研究の種類と実習校

修学期間1年間（短期履修制度利用）

- 実地研究Ⅰのみ（実地研究Ⅱ免除）

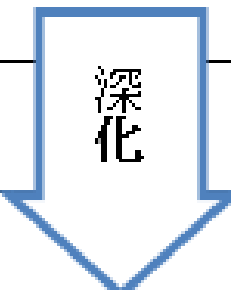
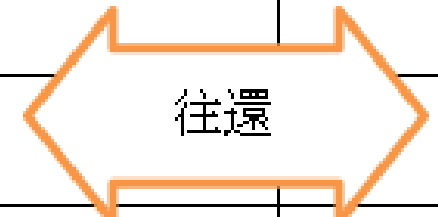
フィールドワーク

修学期間2年間（短期履修制度不利用）

- 実地研究Ⅱを勤務校の業務の中で24日間実施
- 実地研究Ⅱを勤務校以外の1条校で24日間実施

履修・研究計画については、大学院指導教員、勤務校の管理職、本人の三者で十分に協議が必要

現職の実地研究 I

時 期	実践研究活動	大学院での研究活動
1 年次前期	実地研究 I (フィールドワーク) 期間：通年 原則 木・金でのべ 120 時間 ねらい：すでにある課題意識を研究テーマへと 精緻化する実践的な研究のための実習活動とする	課題研究 I ＊研究テーマの具体化 ＊研究テーマの深化
		
1 年次後期	後期 課題研究との関連で深める 実地研究 I の整理・まとめ ＊実地研究 II は免除 (総合的な教育経験とその省察)	課題研究 II ＊課題解決の仮説提示 ＊検証・吟味 自己の探究課題の価値づけの 深化

⑤ 大学院入試情報について



埼玉大学マスコットキャラクター メリンちゃん

研究科アドミッション委員会

1. 入試の種類（選抜区分）

募集人員：52名

一般選抜

現職教員等特別選抜

指定校推薦特別選抜

学部内推薦特別選抜

2. 選抜区分ごとの要件

学生募集要項の掲載頁 →

p.2

(1) 共通の出願資格

教育職員免許法による幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭若しくは養護教諭の普通免許状（専修または1種）を有する者及び取得予定の者で、次の各号のいずれかに該当する者を対象とします。

- ① 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条第1項に定める大学を卒業した者及び令和9年3月までに卒業見込みの者
 - ③ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和9年3月までに修了見込みの者
- ほか、全14件

出願資格⑨～⑭により出願する方：事前に出願資格審査を受ける必要あり
11頁の「5 出願資格（1）の⑨～⑭により出願する者の資格審査について」を確認し、申請書類を提出してください。

(2) 選抜区分ごとの出願資格

一般選抜

「2 出願資格」における「(1)各選抜区分共通の出願資格」のうち
いずれかに該当する者。
大学新卒者、社会人等。

現職教員等特別選抜

教職経験5年未満の場合は、
一般選抜で受験

p.3

「2 出願資格」における「(1)各選抜区分共通の出願資格」のうちのいずれかに該当し、かつ以下の出願資格に該当する者。

初等中等教育で累計5年以上（令和9年4月1日の時点）の教職経験※¹を有し、
在職のまま※²教育学研究科に入学可能な者。

- ① 学校教育法第1条に規定する学校の教員
- ② 教育公務員特例法第2条に規定する教育公務員

※¹ 入学時点（令和9年4月1日現在）

常勤または常勤の職員と同様の臨時任用の職にあった期間（教育委員会等勤務期間含む）
1ヶ月未満の期間は1ヶ月に切り上げ算出。 休職した期間は除く。

※² 在職のまま：身分を保有しつつ職務に従事しない状態。

大学院修業休業制度等により休業中（予定）の者を含む。

（注）15頁「V 大学院特例制度」の「2 短期履修制度」の記載内容を必ず確認してください。

指定校推薦特別選抜

埼玉大学教育学部からの指定を受けている大学から
推薦を受けた者

(注) 12月実施の第2期 指定校推薦特別選抜
公立学校教員採用選考試験最終合格者は筆記試験免除

学部内推薦特別選抜

埼玉大学教育学部在籍の4年次生
+ 事前審査で、特別選抜の対象として認められた者

《推薦対象者》 以下5項目すべてを満たす

- ① 将来、教職（保育士含む）に就く強い意志がある
- ② 教員（保育士含む）としての適性を備えている
- ③ 本学教育学部において学業成績優秀
- ④ 令和9年3月に卒業見込
- ⑤ 教育学研究科に合格した場合に入学を確約できる

3. 試験日時等

(1) 試験日時

第1期	令和8年9月12日（土）
第2期	令和8年12月5日（土）

試験開始時刻は出願区分やサブプログラムにより異なるので、
5頁、6頁を要確認

(2) 試験場所

埼玉大学教育学部（埼玉県さいたま市桜区下大久保255）

4. 学生募集日程

(1) 入学願書等出願期間

第1期	令和8年7月17日（金）～7月23日（木）
第2期	令和8年10月30日（金）～11月5日（木）

出願は**郵送のみ（期間内必着）**（窓口では一切受け付けない）

必ず**簡易書留郵便**で送付

出願書類提出用封筒〔市販の角形2号封筒(24 cm×33.2 cm)〕に書類一式封入
封筒の表に「教育学研究科入学志願書類在中」と**朱書**

《出願書類送付先》

〒338- 8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学教育学部係

(2) 事前審査受付期間

第1期	令和8年6月24日（水）～6月30日（火）
第2期	令和8年10月7日（水）～10月13日（火）

学部内推薦特別選抜への出願者 <7頁確認>

出願に先立ち教育学部各専修内で審査を受ける必要あり（事前審査）

事前審査で、特別選抜の対象として認められた場合に特別選抜での受験が可能

出願希望者は、指導教員等に申し出た上で「推薦承諾書」の記入依頼

出願資格（1）の⑨～⑭で出願者 <11頁確認>

《事前審査出願の手順》

事前審査書類提出用封筒〔市販の角形2号封筒(24 cm×33.2cm)〕に書類一式封入

封筒の表に「教育学研究科学部内推薦特別選抜事前審査書類 在中」と**朱書**

事前審査受付期間内（必着）に埼玉大学教育学部係宛に**簡易書留郵便**で送付

出願は郵送のみ（窓口では一切受け付けない）

学部内推薦事前審査 提出書類

書類等の名称	摘 要
研究計画書	本研究科所定の用紙 パソコン等で作成しプリントアウトした文書を貼りつけOK 「研究計画概要」の枠内に収まるように 裏面は使用できない
成績証明書	埼玉大学教育学部長が作成したもの（厳封不要）
推薦承諾書	本研究科所定の用紙

- ・ 事前審査の結果は**本学CAMPUSSQUARE掲示板**でお知らせ
- ・ 特別選抜の対象として認められた場合：7月からの出願期間に必要書類郵送
事前審査受付の際に提出した書類の再提出は不要
- ・ 特別選抜の対象として認められなかった場合：一般選抜への出願は可能

お知らせ

[TOP](#) > [お知らせ](#) > [令和9年度 埼玉大学大学院教育学研究科\(専門職学位課程\)学生募集開始](#)

News

2026
05/29

お知らせ

令和9年度 埼玉大学大学院教育学研究科(専門職学位課程)学生募集開始

令和9年度 埼玉大学大学院教育学研究科(専門職学位課程) 入学者選抜について

(第1期)

出願期間 令和8年7月17日(金)～7月23日(木)

試験日 令和8年9月12日(土)

【各種様式】

募集要項に提出必要書類が記載してありますので、ご自身の必要書類をよくご確認の上、提出してください。

・ 出願時基本書類（募集要項P.8-9）

《様式 1》（全員提出）[出願書類等提出明細票](#) ※必ず確認してください

《様式 2》（全員提出）[入学願書](#) ※両面印刷

《様式 3》（全員提出）[受験票・写真票](#)

《様式 4》（全員提出）[研究計画書](#) ※参考資料あり（ページ下部）

《様式 5》（全員提出）[収納証明書貼付用紙](#)

《様式 6》（音楽実技試験受験者）[音楽実技試験に関する調書](#)

《様式 7》（現職教員）[受験・就学承諾書](#)

《様式 8》（現職教員）[教育実践・研究業績書](#)

《様式 9》（学部内推薦）[推薦承諾書](#)

・ 学部内推薦特別選抜の事前審査で使用（募集要項P.7～）

《様式 10》（指定校推薦）[推薦書](#)

《様式 11》（外国人留学生）[履歴書](#)

《様式 12》（個別出願資格）[入学試験出願資格個別審査申請書](#)

・ 個別出願資格の資格審査で使用（募集要項P.11）

《様式 13》（現職教員・個別出願資格）[在職証明書](#)

《様式 14》（個別出願資格）[入学希望理由書](#)

《様式 15》（個別出願資格）[教育研究歴・活動歴・学習歴申告書](#)

《様式 16》（希望者のみ）[入試情報開示申請書](#)

《様式 17》（短期履修制度）[短期履修制度申請書](#)

《様式 18》（短期履修制度）[実務の状況に関する申告書](#)

※ 《様式 4》 参考資料 [「教職大学院入学志願者に求められる研究計画書の作成について（参考）」](#)

研究計画書:すべての出願者が提出

教職大学院入学志願者に求められる 研究計画書の作成について(参考)

教職大学院入学志願者に求められる研究計画書の作成について(参考)

〔以下の通りに作成しなくても不合格とはなりません、研究計画書に表現する内容を検討する際の参考情報として提供するものです。〕

教育実践に関する研究計画を、以下の構成例を参考に、600～800字程度で作成します。

1. 問題の所在とその背景
(所属を希望する SP の研究分野にとって課題であることを客観的に記述する)
2. 研究目的
(上記の問題に対して、大学院での研究で明らかにしたいことを記述する)
3. これまでの研究
(これまでの自分の研究や実践の成果、先行研究の関係について記述する)

4. 研究計画

なお、大学院で指導を希望する担当教員*に、入試志願前に事前に連絡を取り、研究計画について相談をしてください。面談を実施する場合は、担当教員の指示に従ってください。

(必要でない)

なお、大学院で指導を希望する担当教員*に、入試志願前に事前に連絡を取り、研究計画について相談をしてください。面談を実施する場合は、担当教員の指示に従ってください。

*担当教員は以下のホームページで確認できます。

<https://www.saitama-u.ac.jp/edu/grad/master/information/subprogram/>

5. 受験科目等

p.12-14

1. 筆記試験「教職に関する科目」
「現代の学校と教職をめぐる諸課題についての問題関心や理解」、あるいは「教職に関する意識や教育実践・教育上の課題に対する考え方」を問う
2. 筆記試験「専門科目」
「サブプログラムに関する専門領域、教科教育学や教科内容に関する領域の知識や理解度、技能」を問う
3. 口述試験
 - ① 「現代の学校と教職をめぐる諸課題についての問題関心や理解」、あるいは「教職に関する意識や教育実践・教育上の問題の課題に対する考え方」、
 - ② 「サブプログラムに関する専門領域、教科教育学や教科内容に関する領域の知識や理解度、技能」を問う
4. 芸術系教育サブプログラム(音楽及び図画工作・美術)の一部の科目：実技試験あり
5. 課された試験科目のすべてを受験しなかった場合：失格

各選抜区分の受験科目等：12頁～14頁、配点：5頁～7頁で要確認

6. 過去の入試問題の閲覧

過去4年間で筆記試験が実施されたサブプログラムの入学試験問題のみ閲覧可

「口述試験」は過去問題開示なし

① 埼玉大学大学院教育学研究科ホームページでの閲覧

<https://www.saitama-u.ac.jp/edu/grad/master/entrance/past/>

※閲覧には事前にフォームでの申請が必要

② 教育学部係窓口での閲覧

閲覧場所：教育学部係（全学講義棟1号館1階 学生センター内）

時間：平日9：00～16：30

「こども性暴力防止法」が2026年12月25日にスタートします

～実習生も性犯罪前科の有無の確認が求められる可能性があります～

IV	検定料の免除	・ ・ 15
V	大学院特例制度	・ ・ 15
VI	障がい等のある入学志願者の事前相談について	・ ・ 16
VII	取得できる免許状	・ ・ 17
VIII	合格者の発表及び入学手続	・ ・ 18
IX	入試情報の開示	・ ・ 19
X	個人情報の保護について	・ ・ 19
XI	安全保障輸出管理について	・ ・ 19

⑥ 現役院生の言葉

教科教育高度化プログラム

自然科学系教育サブプログラム (算数・数学)

1年・学卒院生 池田智也さん



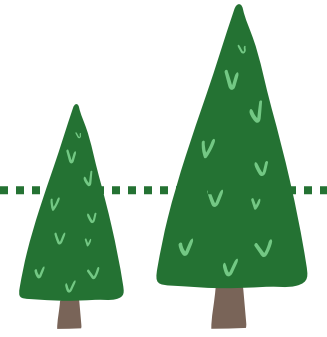


埼玉大学教職大学院説明会

自然科学系教育SP 算数・数学科 池田智也



目次



01

私が進学した経緯

02

大学院で学ぶことの魅力

03

最後に

Table of
Contents

私が進学した経緯

01



プロフィール

- ・茨城県出身
- ・理工学部機械工学科卒業
- 入学当時はSTEAM教育についての研究を考えていた
- 心理的安全性をもとにした動機づけについて研究
- ・中高数学1種免許状
- ・埼玉県中学校数学で採用予定



理工学部出身

他県出身

より自分の研究を
深めたい

他教科の学生や
先生方との交流

まだ、教員として働かなくてもいいのでは？



02

教職大学院のよさ



教職大学院に 進学したメリット

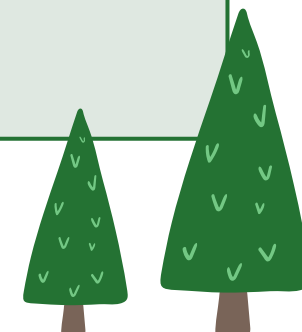
教職大学院に入学して約2ヶ月ほどですが、

「教育」について考える時間が増えました。

現職の先生方や実務家の先生方の現場での考え方や現場の実際を知ること、教科教育の面でもゼミや学会などに参加しながら学びを深められている実感があります。

メリット

- 現場目線の知識
- 教科教育の知識
- 他教科の考え方
- ゼミや学会の参加



03

最後に



教職大学院進学を 考えている学生へ

教職大学院に進学するか悩んでいる学生の方へ、「他大学出身だし…」だとか「教育について深く学んでこなかったからついていけるかな…」だとか不安があるかもしれません。自分はそうでした。

正直に言えば、環境がどうにかしてくれます。入学すれば、否が応でも、教育について考える時間が大半を占めます。そういった環境にとりあえず飛びこむのも大切だと思います。



⑥現役院生の言葉

教科教育高度化プログラム
生活創造系教育サブプログラム(技術)
1年・現職院生(短期履修)
窪田翔太さん



2026.6.19

令和9年度 教職大学院説明会

生活創造系教育S P

窪田 翔太

本日のながれ

- 自己紹介
- 大学院進学のかっかけ
- 大学院での生活・学び
- 最後に

自己紹介

窪田 翔太

- 埼玉大学教育学研究科 生活創造系教育SP（技術）
栽培学研究室所属
- 埼玉大学教育学部（技術専修） 2018年3月卒業
- 埼玉県吉川市立東中学校 教諭（技術）
- 所有免許状：中学校1種（技術），小学校1種

大学院進学のかっかけ

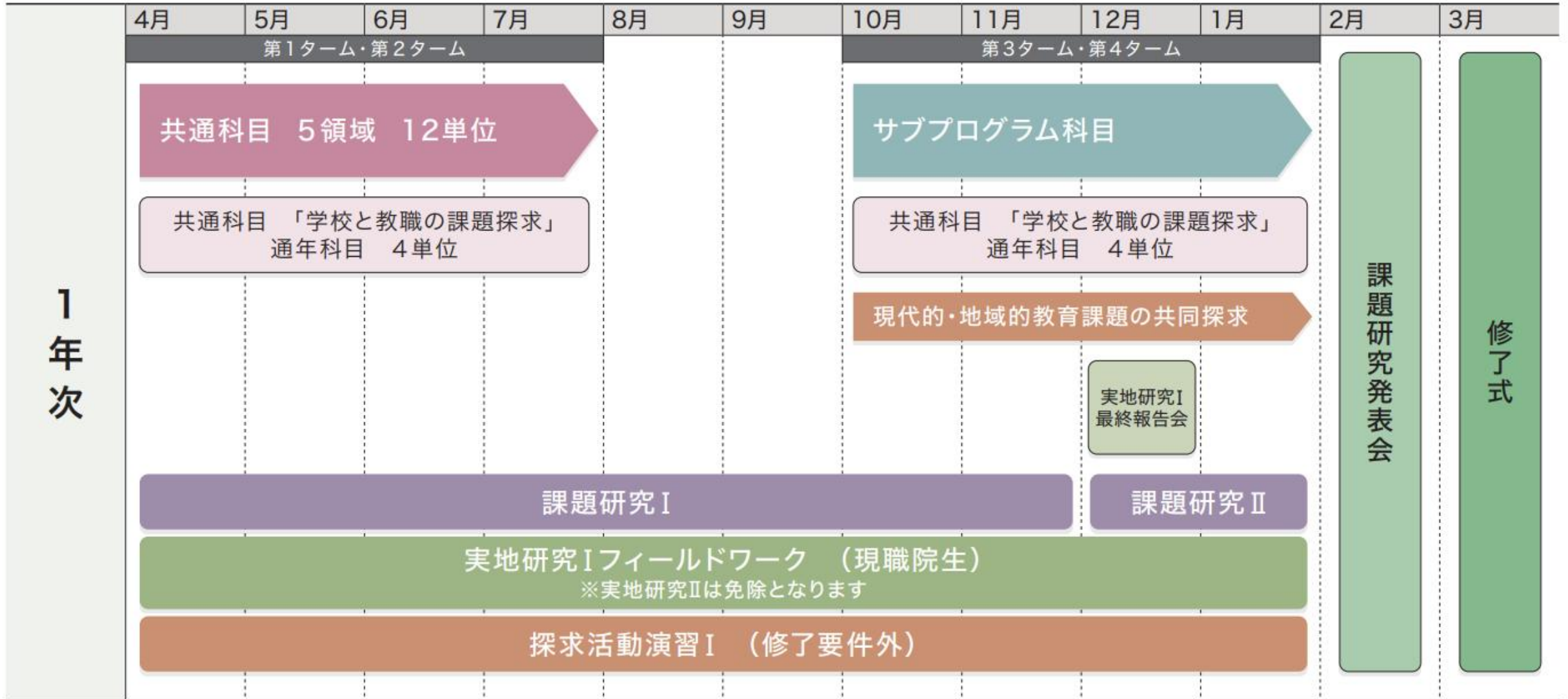
これからの時代にあった

より良い授業を実践するために学び直したい

生成AIの急速の発展, 次期学習指導要領, VUCA, 情報I

スマート農業, 個別最適な学び 等

現職教員のための短期履修制度



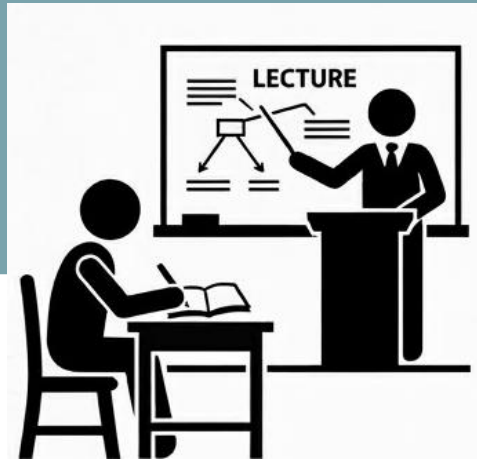
1週間のながれ（第1ターム）

	月	火	水	木	金
1	教育経営の課題探求	教科の教育課程 構成論	教科指導の発展・応用	実地研究 課題研究	
2	教育経営の課題探求	心理・学習評価演習			
3					
4	研究室ゼミ		生徒指導・教育相談の 課題探求		
5	学校と教職の課題探求		生徒指導・教育相談の 課題探求		

カリキュラム

＼ 1 ／

講 義



＼ 2 ／

実地研究



＼ 3 ／

課題研究



講 義

生徒指導・教育相談 の課題探求

- ・ 専門的な講義
- ・ 関心の高いテーマを自分で選択
- ・ 文献や事例をもとに探究
- ・ 院生同士でディスカッション
- ・ 発表



発表スライド

中学校で実践したい指導内容に関する理論を学び、
他教科・他校種の院生同士で意見交換を重ねて深く考えることができた

実地研究

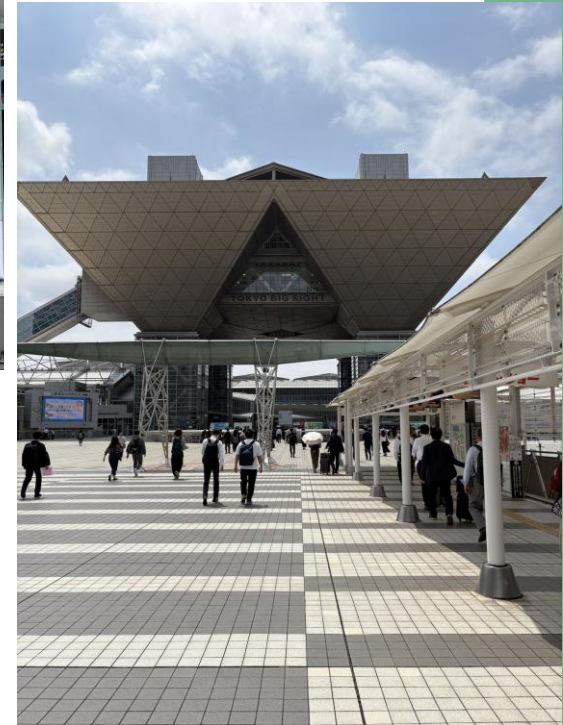
EDIX東京

昨年度までは

- 平日実施のため参加が難しい
- 最新の教育の動向を知りたい

本年度は

- 気軽に参加できる
- 最先端の情報を収集できる



実地研究

県内中学校授業参観

昨年度までは

- ・ 一人教科で、教科指導について相談できる機会が少ない
- ・ 授業研究会の参加が限られる

本年度は

- 気軽に多くの学校に授業を参観することができる
- 横のつながりが広がる



実地研究

----- 埼玉大学教育学部 附属中学校研究協議会

昨年度までは

- ・ 附属中と関わる機会が少ない
- ・ 先進的な実践を学びたい

本年度は

- 気軽に学びに行くことができる
- 研修等にも参加できる



課題研究

学会発表・論文作成

昨年度までは

- ・ 先進的な実践を学びたい
- ・ じっくり授業研究をしたい
- ・ より専門性を高めたい

本年度は

- 指導教員からの手厚いご指導のもと日々学べている
- 人脈が広がる
- 地方まで学びに行ける



日本産業技術教育学会
第69回 全国大会（宮城）

開催場所：宮城教育大学
開催日程：2026年8月29日（土）～8月30日（日）

日本教育工学会 2026年秋季全国大会
JSET Autumn Conference 2026 (49th)



HOME | 大会日程
託児室のご案内 |

札幌市教育文化会館（北海道札幌市中央区北1条西13丁目）
Sapporo education and culture hall (Kita 1 Nishi 13, Chuo-ku, Sapporo 060-0001)
大会期間：2026年9月26日（土）～27日（日）



おわりに

■ アップデートできる

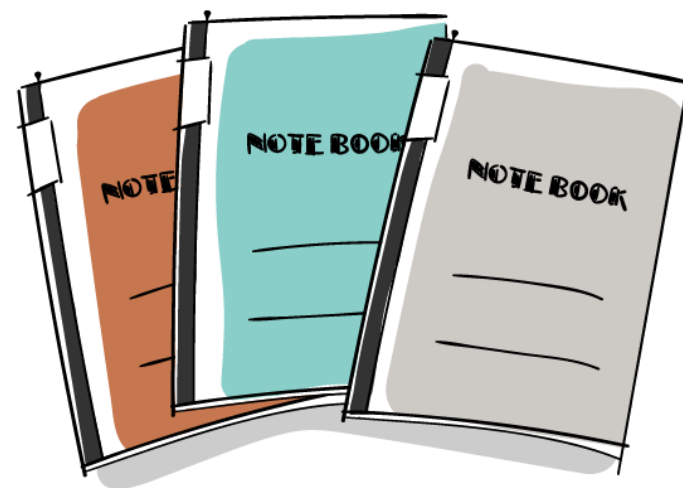
学び続ける，大切さを実感しています。

■ 自分と向き合う

自分を見つめ直す時間に。好きを伸ばし，苦手なことに向き合えています。

■ 仲間ができる

同じ志を持った仲間に出会えました。





ThankYou

ご清聴ありがとうございました

⑥現役院生の言葉

総合教育高度化プログラム
学校構想サブプログラム
2年・学卒院生 杉山愛来さん



教職大学院に ついて

総合教育高度化プログラム

学校構想サブプログラム

2年 杉山 愛來

内容

- 進学理由
- 実地研究
- 院生活
- 最後に

進学理由

○学部時代

埼玉大学教育学部 中学校コース 身体文化専修

2年生の「生活科概説」で、ある教授との出会い

→この教授の元で教育について学びたい！

学部時代とコースを変えた

実地研究

○実地研究 I

- ・ 9月下旬～11月まで、木・金の週2日、16日間
- ・ 授業観察、教科会への参加、職員へ話を聴きにいく

場所が遠すぎて大変だった（朝4時半起き、6時前に出発）

→実地研究 II では実習校を変更

実地研究

○実地研究Ⅱ

- ・4月下旬～7月上旬まで、週2、3日、24日間

自分で日程を決められる

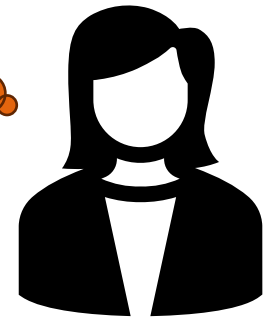
- ・実習校を変更することも可能（もちろん継続も可）
- ・授業観察、授業実施、職員会議への参加、職員へ話を聴きに行く、
身体測定や検診の補助

実地研究

自分で目的を持って実習しないと、なんとなく終わってしまう
学部の実習生とは違う、教員免許を持っている、でも「教員」ではない
立ち位置がわからない

実地研究Ⅰは、Ⅱで行いたいことを見つげるために行く！

何をしよう・・・



院生活

○大学内で

- ・院生控室に集まり、みんなでパーティー（豚汁、ジャム、おもち）

この部屋に行けば、誰か必ずいる

→安心できる居場所

- ・学食でお昼を食べる

院生活

○学外で

好きなアーティストのライブ、プロ野球観戦、推し活

趣味が合う学生を見つけることができた

大学以外でも会いたいと思える**友達**

最後に

○大学院は何をする場所か

- 教育に関心を持っている友達を作る！

現職だろうが学卒だろうが関係ない、大人になっても友達是可以する！

- たくさん話す場所（学校構想SPの教授の話から）

大学院で何をした？「なんかいっぱい話した」

自分の教育観を見つめ、他者の教育観に触れ、

自分の教育観を編み直す

ご清聴
ありがとうございました

総合教育高度化プログラム

学校構想サブプログラム

2年 杉山 愛來

⑦ 質疑応答

- Zoom参加の方はチャットにて質問内容をお送りください。



**本日はご参加いただき
ありがとうございました。
最後にアンケートの
ご協力をお願いします。**



埼玉大学マスコットキャラクター メリンちゃん

アンケート回答はこちら→

